

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakaisushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポル幡ヶ谷九〇四 電話03)33377-4649

FAX(03)32299-5367

振替 〇〇一〇〇一九一五八四三二 労金 中央労金本店 No.1154163

購読料 月額700円

6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言

JR 復帰の思い 若い闘争団員に託す

藤保 美年子……2

全面解決まであと一歩

参院選後 政治はどうなる

滝野 忠……3

大美容労働組合解散会を行う

奥田 雅雄……5

―各労働組合そして大美容労働組合員の皆様へ―

印刷労働現場の長時間労働と労災死亡事故

……………5

民主党の分解の可能性

……………7

―参院選 各党の動向―

教師になれない

……………10

―ニューヨークタイムズ 二〇一〇年五月一九日付電子版―

読者からのおたより

……………13

旬刊 社会通信

NO. 1077

二〇一〇年八月一日号

二〇一〇年八月一日発行
(毎月一日・二五日二回発行)

J R 復帰の思い 若い闘争団員に託す

全面解決まであと一歩

仲間の皆さん、家族の待ち望んだ解決に一定の到達点を迎えることができました。まだ雇用問題がありますので全面解決には至っておりませんが、ひとまず二三年という長い闘い、解雇当時から激励に駆けつけて下さり、闘いに勇気を与えて下さった仲間の皆さん、そしてこの会場に参加されている皆さんを始め全国の仲間の皆さんの物心両面に渡る御支援を頂き、私達家族も闘いを諦めることなく子供も含めて家族ぐるみの闘いをして今日を迎えることが出来ましたことに、まずもって心から厚くお礼を申し上げます。有難うございました。

本来ここにいるはずの仲間、志半ばでこの世を去った組合員や夫の J R 復帰を願ってこの世を去っていった家族、その仲間と一緒にこの喜びを分かち合うことが出来ず残念でなりません。

闘い続けて二三年、夫達は紙切れ一枚で不当解雇され、清算事業団でも「働く気のない者・怠け者」のレッテルを張られ再就職が不可能なほど名誉を傷付けられてきました。清算事業団最後には、駅も線路も当局も引き継いで夫達への責任だけが引き継がれず二度目の解雇を強行し路頭に放り出されて二三年、政府・J R に放置され続けられました。

当初は、働き盛りの夫から仕事を奪い、私たち家族の平穏な生活まで奪った許せない怒りと悔しさと闘争生活に入りましたが、収入が閉ざされ、小さな子供を抱えてこの先どう子育てをしていけば良いのか手探り状態で精神的・金銭的に不安で悲しくて辛い日々の連続でした。夫婦の会話はいつも闘争とお金のことばかりで、時には大声になり家庭の中は暗くギクシャクすることも度々ありました。

子供達もまた子供なりに学校関係や友達関係など肩身の狭い、みじめな思いにさせられ当局の前で「お父さんの仕事を返して！」泣き叫んだこともあり、子供達も一緒に拳を掲げてきました。「お母さん、おやつは買わなくていいよ」、まるで自分に言い聞かせているような言葉で私を励ましてくれました。お友達には「家は貧乏だから」と話していたようですが、決して闘争団の子供であることを恥じることなく弁論大会の時には、人前で堂々と父親の生き方を発表する姿に、私は勇気づけられたこともありました。

闘争を決意したことで親にも気苦労をかけてきました。「生活は、子育てはどうするんだ」と心配し続ける中で不敏に思えたのだと思います。「子供におやつを買ってあげなさい、美味しい物食べさせなさい」と度々バックにお金をそっと忍ばせてくれることもあり本当に助けられました。親もまた一日も早い J R 復帰を願って署名を集めたり物資販売を広めたりと、「鉄道員は働かない」とバッシングされることもありながら私達を支え続けてくれました。

子供も親も巻き込んだこの二三年間、一口では言い表すことのできない、乗り越え

るものが沢山ありましたが、お陰さまで当時小さかった子供達も仲間の皆さんのご支援を頂き、まだ学生の子もおりますが、ほとんどが社会人となり結婚する子も増えました。この解決に向けた報道を耳にして娘たちから「長い間、御苦労さん」労をねぎらう言葉を掛けてもらい、子育てのやり直しが出来ない、二度と取り戻すことの出来ない二三年間ですが、やっと闘争団の子供という肩の荷を下ろしてあげることができたとと思うと、どこかホットした気持ちにもなっております。

厳しい闘争生活の中で子供たちが心まがらず素直に育つことができたのも、支えて頂いた仲間の皆さんのおかげだと心から感謝の思いで一杯です。

更に、仲間の皆さんには二〇〇〇年の四党合意問題の時、国労組織が混乱をし仲間の皆さんにご心配をお掛けしたことがありましたが、仲間の皆さんは旭川地区本部の闘いを信じて力強く支えて下さり共に闘って下さいました。そのことが、今日に結びついていると思っております。そして、裁判闘争では加藤弁護士先生をはじめ多くの先生方に「不当労働行為」を認めさせる判決を勝ち取って頂きました。政治解決では二瓶議長を先頭にご尽力を頂き、国会議員の皆さんのお力を頂き、ある一定の到達点を迎えさせて頂きました。

すべての仲間の皆さんに心から感謝の気持ちで一杯です。

全面解決まであと一歩、路頭に迷わない為の一番大事な雇用問題が残っています。夫も私も仲間と共にJR復帰を目指して闘ってきました。が、しかし二三年経った今、夫は六〇歳近くなります。JR復帰するには不可能な年齢になってしまいました。この思い、JR復帰のこの思いは若い闘争団員に託し無念を晴らしてもらわなければなりません。

当時の中曽根首相が「一人も路頭に迷わせない」とした公約、今こそ政府にはしっかりと守って頂きたいと思えます。

どうか仲間の皆さん、雇用確保実現に、今一度仲間の皆さんの大きなお力を頂けますよう心からお願い申し上げます、解決に向けてのある一定の到達点を迎えさせて頂いたお礼と家族の報告とします。有難うございました。

二〇一〇・七・一〇 国労旭川地区本部報告集会

国労旭川地区本部家族会長 藤保美年子

参院選後 政治はどのような

参院選結果は本誌の読者ならだれもがよくご存じのことだ。直後の職場の若い労働者との定例的な学習会で①なぜ民主が惨敗したのか、②自民は勝ったといえるのか、③参院選を演出したのは誰か、④これから日本政治はどこへゆくか、⑤護憲の政治勢力の課題はどのきつい質問を受けた。

現在日本の政治・階級情勢は労働者階級が八〇%超を占めているのに、その階級的本能が去勢されたかにあることだ。それに貢献しているのが資本の利益を一途(いちず)に追求してやまぬ連合という労働組合、政界再編・マニフェスト政治に21世紀臨

調に身も心も売り払い、恥じることない大商業紙、TVのマスメディア、雑誌メディアは極右言論人を大動員し『日本書紀』の「歴史・伝統・文化」宣伝に大童（おおわらわ）、二つの夕刊紙は民主派対反民主派で部数拡張を競い、週刊誌はスキャンダルを追い求めるばかり。

今回選挙でビックリさせられたのは、民主が惨敗したことではなく、護憲勢力の新社会党、社民党、共産党が予想しなかった敗北となったことだ。参院選は三年ごとにある。一九九八年からの推移は社民は四三七万票から二二四万票へ約半減、共産は八一九万票から三五六万票へ約六〇%減。新社会は今回、社民とともに護憲勢力の回復に力をつくしたが、その想いは報いられなかった。この間の護憲勢力の参院比例得票数は九八年の一三五〇万から五八〇万だ。

これはさきに述べたマスメディアの宣伝と社民、共産がともにする「運動で変化を」と、現代社会の根本的矛盾を暴露する思想運動がなくなったことによるものだ。

民主がなぜ負けたのか、理由は二つ。小沢さんは鳩山さんと「心中」。この間の経過はわからない。小沢にすれば、代表・幹事長辞任で菅が代表、したがって総理大臣になることは分かりきったこと。その菅が消費税上げを宣言するなんて、まさかまさかだったに違いない。

新聞界の長老は、私に「菅さん、財務省に取り込まれましたね」とささやいてくれた。はたしてそうか。菅さんに能力あるとは思ってない。だってそうでしょう。彼って、生きるか死ぬかの「土壇場（どたんば）」からはつねに身をそらし「勝ち馬」に乗っかるだけで生きてきた人じゃありませんか。

菅さん「ぼくは市民派、なんども選挙に落ちた」と。彼は新しくつくられた政党に後からついていっただけの御仁。

そんな菅さん、とつじよ「消費税一〇%へ」なんていっちゃった。庶民は財政赤字大宣伝で、「いつかは」と、「それもやむえないかも」。政治家、そして民主にケチつきたい輩はちがいますよね。「政権党の党首、総理大臣が云ってはいけないことだった」と。じつさいそうですね、野党の自民がいうのならば「引き上げ」にはなりません。しかし、首相の一言は重い、これってじわじわ菅さんを追いつめることになると思っていたらそのとおりになっちゃった。

民主が負けようが自民が勝とうが本質的に変化はありません。だって、民主は第二の自民党ですもの。このことは鳩山さんから菅さんへ、鳩山さんの八ヶ月の政治ではつきりしたんじゃないやしませんか。

今度の参院選でマスメディアは衆院と参院の「ネジレ」を強調します、民主は小泉時代の自民のように衆院で三分の二をもたない。法案は一本も通らない。したがって菅内閣の行き詰まりは必至、あるいはこんな主張もあります。日本の政治が停滞することは必至、日本は世界に遅れをとる。

ここから出てくるのが部分連合だ自民党との連立だとのヤジ馬発言です。こんな小手先の議論よりもっと深刻なのが、二院政を一院政に変えちまえ。あるいは衆院優位、つまり参院はおかざりの議員構成にしちまえとの主張が強まるだろうことです。

大美堂労働組合解散会を行う

―各労働組合そして大美堂労働組合員の皆様へ―

大美堂労働組合は一九七二年に組合を結成して、去る二〇一〇年六月二十七日、三八年の歴史に幕を閉じました。

高度成長と共に歩み、低成長時代、そして大不況時代へといろいろな社会状況の中で、企業内組合として労働者の生活と権利を守る闘いを続けてきました。

しかし二〇〇八年六月二十七日に突然会社社長より倒産、全員解雇の通告を受けました。今年二月一二日に第六回債権者集会で貸金未払い問題は終了しました。

組合は倒産と同時に全印総連に加盟し、地域の労働組合の支援を受け、支援共闘会議を結成し三〇六日の工場占拠の泊まり込み闘争を行いました。

解決後一年間は大美堂労働組合を存続してきましたが、企業の消滅と共に解散することにしました。今後組合員は各人それぞれの思いの闘いを続けていくことを願って毎年集まろうと思っています。

印刷業界に限りませんが、企業間格差が強まり労働者を人間として扱わない状況が強まっています。つい三月にもプリントパックという印刷通販といって「三六五二四時間やっています」というキャッチフレーズのもと労働者を長時間低賃金で働かせ、柳沢裕一くん二六歳が印刷機にはさまれ死亡しました。労働組合もありません。そして労基法も守られていない職場です。一方企業の売上げは七倍も伸びています。

今労働者は大失業時代の中で不安定な雇用を押し付けられ、低賃金、長時間を許しています。闘いなくして安全も権利も守れない時代は資本主義社会が始まって変わることなく続いています。高度成長でおぼれをもたらしてきた時からおぼれもない時代へと突き進んでいます。中小企業の経営者も経営するのが嫌になるくらい利益が出ない価格破棄が進んでいます。大企業の一人勝ちは許せません。儲かればいいという考えではだめなんだと声を出し、社会をお金中心の社会から人間として幸せに生きる社会に変えなければなりません。今度は皆さんの活躍をお祈り申しあげます。

(二〇一〇年六月二十七日、大美堂労働組合執行委員長 奥田雅雄)

印刷労働現場の長時間労働と労災死亡事故

過酷 企業間競争

去る三月二二日京都市右京区の印刷会社プリントパックで入社してわずか一ヶ月半、希望あふれる二六歳の青年労働者が菊全判八色機的大型印刷機デリバリ部分(排紙部分)に頭を挟まれ死亡する労災事故が起きました。京都市域ではこの二〇年間で二度目の死亡労災事故です。

このプリントパックは前身が進洋製版という製版会社でしたが、「印刷通販」と銘打ってインターネット受注による三六五二四時間操業を行い、二〇〇五年売上七億円から二〇〇九年同五二億円と五年間で売上を七・五倍に拡大急成長させています。印刷関連産業の中で製版業は生産器機のデジタル統合が進み、多くの部門が印刷会社

社内内で内製化された事で、業態として存続できなくなり生き残りをかけて新規事業への転換を進めている最中の事故でした。

京都ではプリントパックと同様に伏見区のグラフィックという会社が、京阪写真製版から業態変革して同じようにインターネット受注による二四時間三六五日操業で急成長しています。この二社は同地域でしのぎを削るライバル競合企業で、事故の背景にはこういった過酷な企業間競争もありました。事故の翌日同社のホームページには次の様なお詫びが掲示されました。

「機械の不具合により暫くの間受注ができません」と。一人の未来ある青年の死は「機械の不具合」と扱われています。

コストカットに躍起

インターネット受注は、二四時間型物流体制に支えられて地域間距離差を取り除き、ひたすら「安さ」を競い合うベンチャー企業は全国に拡大しています。これらの企業競争は、あたかも牛井の価格競争のようどこかが倒れるまで単価を下げるダンピング競争となり、結果として「ひたすら受注し続ける」事でだけ企業が存立できる構造的な自転車操業を作り出しています。

どの企業も「低価格」を他社より一歩でも進めるため、コストカットに躍起となり、労務コストをカットし雇用をカットしそしてついに安全衛生もカットして労働者の命が犠牲となりました。産業構造全体の熾烈なコストカット競争の結果が今回の死亡労災事故であり、決して一企業の偶発的な事故ではありません。こういった淘汰の市場競争を展開する企業は、当然地元の経営者団体に（京都府印刷工業組合など）加盟しないアウトロー企業で、業界としての経営・生産秩序にも参加する意思を持ってはいません。

一方、昨年末にはこの会社で働く労働者から「月一三〇時間の残業が常態化しておりこのままでは身も心ももたない」と地域労組に労働相談が持ち込まれ、全印総連が「労働組合に入って労働条件を改善しよう」と情宣活動を強めていた矢先の事故でした。

横行するダンピング

印刷産業は京都府においては全国に二府県しかない産業別最低賃金の対象となつているように（長野県と共に）地場産業的な色彩を持つ一方で、先に指摘したような厳しい過当競争の中でダンピングが横行する受注産業です。とにかく「安く早く」を競い合う業態は、他の製造業とは違って計画的な生産が困難な構造を持つ産業といえます。そのため、無理な受注を続けると、労働基準法諸規定を守るところか労働者の安全や健康すらもないがしろにされかねない構造的な条件・環境があります。

しかし、命が脅かされるような産業にしたいくないという思いは働く労働者が共通して持っています。全印総連京都地連はこのような労働者の願いをもとに、業界団体である京都府印刷工業組合、京都労働局、プリントパック社にそれぞれ申し入れ行動を行いました。

京都労働局には四月五日、事故の原因究明・公開とともに、事故の背景として印刷産業に蔓延する三六協定無視や協定の捏造、三六協定未締結の長時間残業など重大事故に繋がる就労実態を今後監督指導することを申し入れました。しかし事故原因の調査結果公表には「絶対にそれはしないし出来ない」と頑（かたく）なに拒否しています。印刷機器の構造はどのメーカーの機器も同一で、「それでは産業としてこのような事故の予防対策が講じられない」と指摘すると押し黙っていました。このような重大事故の原因を当該企業内の「改善指導」に留めるのではなく同一産業内での事故防止の教訓とする指導が必要なはずです。行政としての規定があるのでしようが、労働行政一般論ではなく労働者保護行政の視点が必要と痛感しています。

安全なくして労働なし

一人の労働者がなぜ職場で死ななくてはならないのか。過労死や過労自殺が後を絶たない日本社会は異常です。人の命の重さをもう一度再認識しケガや死亡が出ない職場にしていかななくてはなりません。そのためには、労働組合が「安全なくして労働なし」というスローガンをかけ、自らの職場の安全、衛生を守る闘いをすすめなければなりません。

また印刷産業に広くはびこる長時間労働は、今回のような事故の温床ともいえます。二〇一〇春闘でも一〇年以上に渡って三六協定未締結で慢性的な長時間残業を放置してきた企業との協定締結交渉で、企業側はこれまでの長時間残業の実態を追認するだけの【一日五時間まで労働時間延長】の案を出してきました。理由は『受注産業』だからです。

長時間残業、三六協定無視や協定の捏造、三六協定未締結の残業など、重大事故につながる就労実態を改善することが求められています。多くの労働者にこのことを知らせ、労働条件の改善の取り組みを広げていくために奮闘します。

(全印総連京都地連 奥田 雅雄)

民主党 “分解” の可能性

― 参院選 各党の動向 ―

民主は第二自民党

参院選が公示されました。鳩山さんに代わり民主党の指揮をとる菅さんは、鳩山さんと似たり寄つたりの空者（うつけもの）でいらつしやるようですね。鳩山さんよりもっと深刻と思われるのは、菅さんが夢想者（ユートピアン）でいらつしやるのに、現実主義者であるうとムリをしているかに見受けられることです。

菅さんは施政方針演説で「新内閣の政策課題」に①戦後行政の大掃除の本格実施、②経済・財政・社会保障の一体的建て直し、③責任感に立脚した外交・安全保障政策をあげておりました。これって過去と現代の政治家、財界人の主張をつなぎ合わせたにすぎないんじゃないやありませんか。

①については大勲位・中曾根康弘元首相が三十余年前に得意気にしゃべった「行革で戦後政治を大掃除して立派な憲法を安置する」、②では二一世紀になってから日本経団連が壊れた蓄音機のようにくり返し続けている「税制・財政・社会保障制度の一体改革」、③は鳩山さんが好んで使った「友愛外交」につうずるかのようですが、また自民・財界の主張であり続けた「国際貢献」とも重なってくるからです。

菅さんは三つの政策をどんな世界観、手段と方策で実現しようというのでしょうか。資本主義ではあるけれど資本主義ではない「第三の道」だと彼はこう解説してみせてくれます。

「第三の道は、経済社会が抱える課題の解決を新たな需要や雇用創出のきっかけとし、それを成長につなげようとする政策です。現在まで続く閉塞感の主たる要因は、低迷する経済、拡大する財政赤字、そして信頼感が低下した社会保障です。新内閣は、『強い経済』、『強い財政』、『強い社会保障』の一体的実現を、政治の強いリーダーシップで実現していく決意です」と。

菅さんの言葉は「責任感ある」、「強い」といった抽象的で無内容、かつ空文句でいっぱいです。菅さんは「責任感ある外交」「強い経済・財政・社会保障」をだれのためにやろうとしているかまったくはつきりしていません。六月一九日付の諸新聞は菅さんがゴーン・日産社長（年収八億九〇〇万円）について、①なぜゴーンさんの給料が高いのか、首切りがうまくいったからだ、②すべての会社で同じように首切りした社長が偉いとなったら、失業者であふれてしまう、リストラする経営者ほど立派というのは大間違い、と歌舞伎役者のように見得を切ってみせました。その舌の根も乾かぬうちに消費税を一〇％に上げたい、これって財界には「弱く」、労働者・勤労国民には「強く」ってことじゃありませんか。マニフェストやらには法人税値下げ、さらには日本中を経済特区にし、大企業や金持ちどもの減税が第一の目的である地方分権↓道州制導入もしつかりと書き込まれておりました。民主党って第二自民党以外の何者でもないことの証拠です。

三〇四年後再編必至

「脱小沢」やらの民主党はこれからのような党建設をおこなおうというのでしょうか。小沢一郎なる人物は旧自民党の悪しきところ良きところを合わせ持つ人物、好きではありません。彼が党とは組織力、組織力の源は地べたをはいくばり支持者・仲間をふやすことと云い、実践する本能には共感を覚えます。

民主党は資産家で株式運用で利食い生活を業（なりわい）とする鳩山一族、政党助成金を転がし不動産屋、悪徳代官しながらの小沢一郎の二人を金主（きんす）元に結成され、21世紀臨調が後押ししつくられ、権力に上りつめた政党です。21世紀臨調は保守二大政党制を日本政治の仕組みとすること、そしてマニフェスト政治の大宣伝は小選挙区制下で資本主義制度の枠内での論議に世論を誘導する手段でしかなかったのです。鳩山由紀夫さんが地獄に転げ落とされたのは、彼の世界観が21世紀臨調の意図するところではなかったからです。

民主党は旧自民党・旧社会党・旧民社党勢力を古い人脈とし、旧日本新党・松下政

経塾出身者を新興勢力としています。前者は組織を大事にし、後者はマスメディアがつくる世論しか頭にありません。民主党内の古い勢力はあと一回の衆院選、今回の参院選で定年です。したがって、三〇四年後には民主党、そして自民党も松下政経塾出身者にとって代わられます。とくに、泥船自民党から逃げ出したたちあがれ、改革、みんな、国民新党の中心人物は「年金者政党」とやゆされているくらいですから、未来はまったくといっていいほどありません。したがって、日本の政治、政党は三〇四年後、次期衆院選、参院選を契機に再び大きく姿を変えることが予想されます。

世界観欠く民主党

民主党はどこへ行くのでしょうか。主要閣僚、主要党役員の多くは日本新党、松下政経塾の出身者と全共闘経験者、彼らはおしやべりと風を読む才はおもちかもしれませんが、世界観をもっているとは思えません。あるとしたって系統的、体系的にはなくこった煮、積み木細工が本当のところであるようです。

政党は大きな価値観、世界観をもにし、目的達成に力を注ぐ組織です。民主党は党の統一的世界観を示す綱領をもちません。いや、すでに述べたように政界再編を目的にした21世紀臨調に生み、育てられた雑多な人びとの寄り集まりで作りたいとも作れないのが実態です。したがって、マニフェスト、菅さんの施政方針演説は「ああする、こうする、こうしたい」が羅列されているにすぎません。自民党は日本国憲法の前文、九条改「正」を党是とし結成された党。したがって、マニフェストでは第一項に「保守本流」はわれわれと、「憲法・国家観」を『自衛軍』創設、憲法改正の発議要件緩和を盛り込んだ二〇〇五年の『党新憲法草案』を踏まえた憲法改正原案の国会提出」を強調しています。自民党分派四政党はいずれも「改憲」を掲げているのが特徴です。いずれ、自民か民主に吸収合併されるだろうことは必至で「第三極」なんて夢のまた夢、シェークスピア流に云えば「真夏の夜の夢」にすぎません。

共産党はごく最近まで「ルールある資本主義」を国家像としていましたが、マニフェストでは『ルールある経済社会』をつくるため、大企業に対し民主的規制を行い、横暴な経済支配をおさえる」を世界観としています。また、共産党と共同する全労連（全日本労働組合総連合会）は、七月末に開く大会議案書に①憲法に依拠し、大企業中心の社会、経済の仕組の転換を求める共同の発展、②二年間の運動の中心に「安定した良質な雇用を求める運動（雇用闘争）」をおき、雇用を柱とする福祉社会をめざすとしているのが特徴です。

「護憲の党」として評価の高い社民党は①政治の品質保証役として憲法や平和、政治倫理、人権といった重要課題を厳しくチェック、②自衛隊を「専守防衛」に徹した必要最小限の組織に縮小するとしています。

公明党は創価学会を基盤とする宗教政党、階級的基盤は小零細企業と小零細企業に働く労働者が圧倒的です。この党は政治の流れの中で右に右に流されていかざるをえない。ですから、マニフェストでは生活安定策を第一に掲げ、国家・安全保障では「憲法改正」、「日米関係を深化・発展」と述べているのです。ここでの特徴は「加憲」をいい、「日米同盟」との言葉を慎重に避けていることですね。

主要政党はこうして己れの国家観と世界観、さらには支持基盤を明らかにしていますが、民主党にはそれが無いことです。

「組織だのみは限界」

「通信」事務所は東京・渋谷区、衆院議員は民主党、「ミスター年金」と云われた御仁です。前回区議選で事務所の建て屋の隣りに民主女性議員が生まれました。彼女は三年間、日常活動ゼロ。チラシを目にするともなければ、ポスターがはり出されたことすらありません。今回の参院選前段でも公明、共産はポスターはり出しに大童でしたが、民主ポスターは渋谷管内、東京のどこにも見られません。これが民主党の実態なんですね。組織をつくる、つくらなければとの気概はいつさいみられない。「風」たよりなんです。

「地べたをはいずり回れ、選挙民と一人でも多く語り握手しろ」が小沢一郎。これこそ政治活動の常道。小沢に代わり選対委員長になった人物がある新聞で①もう地べたをはうだけでは勝てない時代、②組織だのみは限界、昨年の衆院選で自民があんなに落選した、③普通の納税者から評価される政党にならないといけない、④民意に対する敏感さが必要と得々と語っていました。若い選対委員長は小沢への対抗心をムキ出しにした結果でもあるのでしようが、民主党は空中にフワフワ浮かぶシャボン玉であれというのでは民主党の行く先は目に見えます。長続きするわけありません。政治とカネ、普天間で鳩山への評価が地に落ちた時、民主から他党へさっさと転換した議員や候補はそんなに少なくはなかったですよ。

民主は目下、権力維持を求心力に団結を保っています。やがて、小手先では対応できない世界観が問われる時代が到来します。その時、地道な組織活動、宣伝活動よりおしやべり好きで世論に敏感でありすぎる民主党の議員たちは四分五裂するに違いありません。

世界の激動は必至

資本主義という生産関係は、資本主義に内在する基本矛盾の爆発で大きく揺れ動くばかりか、階級対立を尖鋭化させています。多くの新興国は資源高と安い賃金をテコに繁栄を謳歌（おうか）しているがごとくですが、タイや中南米諸国では貧富の差が階級闘争として前進しています。

先進資本主義国では金融資本の投機を野放しにしておいたのでは、いつ第二の世界大恐慌が勃発するかもわからないと、政府は金融資本規制に取り組まざるをえないところまで追い込まれています。これはきわめて重要なことです。なぜなら、政府や国際金融資本の諸組織が資本主義に行き詰まりを感じているばかりか、資本の論理を否定せざるをえないところに追い込まれていることの証明に他ならないからです。

リーマンショックは一九三〇年代恐慌以来の大きな恐慌です。政府は大金融機関、大企業救済のために洪水のごとく資金を供給しました。財政出動で恐慌を押さえこもうとしたのです。恐慌は一時落ちつき、経済は再建されるかにみえましたが、財政赤字拡大はEUとユーロ圏諸国を直撃する新たな矛盾の爆発となって現れました。

教師になれない

―ニューヨークタイムズ 二〇一〇年五月一九日付電子版―

七人の募集に三〇一〇人

ウエストチェスター・カウンティ（ニューヨーク州東南部の郡）のペラム記念高校の七人の教師募集広告に、三〇一〇人の応募者が殺到した。中にはカリフォルニアから応募した者もいた。ロングアイランド島のポートワシントン地区では八人を三六二〇人から選んだ。四一年のキャリアを持つ教育長がこれまで見た最多の応募者であった。

これまで採用が難しかった特殊な分野もいまでは容易に埋まる。ジェリコでは特殊教育の五人枠を九六三人から選んだ。この数字は従来の二倍以上である。コネチカット州ハートフォードでは化学と物理の枠にはこれまで五人も応募がなかったが、それぞれ一〇人、五人の応募があった。

不況は長らく不況に強いと見られていた職業をもとらえているようだ。教育長や教育学者、教師志願者たちは、教師市場は大恐慌以来の狭き門であると口をそろえている。州と市町村の歳出削減が相次ぐ中で、ニューヨーク市やロサンゼルス市の予算に窮した都市部の地区では求人サイン自体を下ろしている。これらの地区ではかつて毎春数千単位の若者を採用していたのである。

予算が潤沢な郊外地区（注1）でさえ、大規模なレイオフを準備している。学校当局者と組合幹部は来年度（注2）の全米の教師削減数は一五万人以上にのぼると予想している。自治体財政が危機的状况に陥った一九七〇年代をもはるかに凌ぐ数字である。

学校は出たけれど

今春、コロムビア大学の教員養成校を卒業したばかりのジュリアナ・パンコウは、一月以来、履歴書を四〇通送付した。先日の土曜日、校長が出席すると聞いて彼女はハーレム地区のある学校に行った（実は公開授業をするために招かれたのだが、市が新規採用を凍結したのでこれは実を結ばないだろう）。パンコウさんは両親と一緒にニューヨーク市のスカーズデール町に戻らなければならず、おそらくSAT（大学進学適正試験）受験の家庭教師を始めることになるだろうと語る。

「これ以外に思いつかないの」と、先週ペラム記念高校の校長室の外で一つの英語教師の職を求めて六一九人の志願者の中の一人として持っていたパンコウさん（二三歳）は言う。「ここに問題があるのよ。だからしたくもないことをやるはめになる」。

パンコウさんのように多くの学生が就職さがしに躍起になっている。教員養成校が企画した二つの就職説明会には六五〇人というかつてない数の学生と卒業生が集まった。昨年は四五〇人だった。先月、追加的に実施した説明会はハーレム地区の学校に重点が置かれていた。

同校の就職幹旋部長のマリアンヌ・トラメリによると、教職の求人は例年の半分で、

一週あたり二〇人余りから一〇人余りとなり、そのほとんどがチャーター・スクールからのものだという。

チャーター・スクールは公的な資金援助を受けつつも独自に運営される学校である。学校選択の自由への政治的・経済的支援が広がり、この学校形態は入学者を増加させており、ニューヨークなどではここだけが雇用を伸ばしているのが現実である。

ニューヨーク市のサクセス・チャーター・ネットワークはハーレムとブロンクスに七つの校舎を持ち、一三五人の教師を雇っている。八四五三人の就職希望者の何人が日に三回事務所に呼ばれ、状態をチェックされてきた。ベテラン教師もその補助教員に申し込むこともあるという。

「心が痛みます。でも、ほかではもつとひどいことがまかり通っています。」と語るのは、ネットワークの創始者であり社長で前市会議員のエヴァ・S・モスコウイツツ。

全米に八二校のネットワークをもつチャーター・スクールKIPPでは、サンフランシスコ・ペイエリアの七校にこの一月以来、七四五人の志願者があつた。昨年は三八五人だった。

ペンシルベニア大学では先週卒業した教師志望の学生九〇人のほとんどが職に就いていない。その多くはフィラデルフィア州の公立学校への就職を希望していたが、採用凍結が発表され、今月予定されていた面接はなくなった。

「みんなに志を貫くよう励ましている」とペンシルベニア大学の教育学教授のキャシー・シュルツは言う。「が、これは大変厳しいことなのだ。生徒たちは奨学金を借りてきており、その返済のために何でもいから仕事につきたいのだ」(注³)

ミシガン州立大学は五〇〇人の教師志望の卒業生たちの眼を州の外に向けようとしてきた。地元には職はなく、キャンパスから車で四時間のシカゴでインターンシップ・プログラムを開始したのだ。年一回開かれるキャンパス・ジョブ・フェアに、今では教授たちも加わり、学生たちがミシガン平原周辺に滞留することなくノースカロライナやテキサス、ヴァージニア州にまで足を運ばせようとしている。

「卒業した学校のある土地に止まり、教えたいという志向があることは承知していますが、学生には何としても職を得てほしいのです」と教員養成学部長のスザンヌ・ウイルソンは述べる。

取材した五人の前教師のうち、ジェード・スタイアー(二七歳)は小学校教師を三年間追い求めたが、断念し看護婦養成プログラムに登録した。彼女は数百の履歴書を送ったが、面接にたどりついたのは年に一度だった。彼女は補助教員として諸手当なしで日当八五ドルで働いていた。

「ものにならない教職のために五万ドルもはたいたのかと思うと、本当にがっかり」とスタイアーさんは言う。「教師はきっぱりあきらめたけど、それでも他にやりたいことはないのよ」

学校は選択に大忙し

教師不足が緩和されると、今度は学校側が候補の選択に追われることになる。

一流大学の卒業生を教育困難地域に派遣するティーチ・フォー・アメリカ(NPO)

は今年度四五〇〇人募集したが、四万六〇〇〇人の志願があった。これは前年比約三分の増となる。アイヴィー・リーグの大学からだけでも一六八八人が応募した。教職の賃金が五万ドルから一三万四千ドルという恵まれた地区であるこのペラムにおいては、高校の管理職と教師たちはこの数週間、履歴書の選別に追われている。グレード・ポイントの平均(成績評価)が三・〇(三・三の科目もある)以下の者は、四月三〇日の応募期限に間に合わなかった者同様、足切りにあった。約二〇〇人が面接へと進んだ。

「選ぶのがとても難しい状況です。大変優秀な志願者が押し寄せてきており、年々厳しくなるばかりです」とペーラム高校校長のジェナイン・クラークは言う。

先週、クラークさんと英語教科主任が志願者と面接しているとき、社会科志願者はフランス革命について四〇分で小論文を書かされていた。その上の階では、物理と生物志願者の面接が行われていた。

「なにかを求めてここに来る」とデニス・R・ラウロ・ジュニア教育長は言う。彼は今年はまだ事務所のドアを閉じようとしている。職からあぶれた教師がアポイントもなく履歴書を手渡しに来るのが絶えないからだ。「こんなに多い年は今までにありません」。

成績優秀な志願者はラウロ氏やPTA、生徒と顔合わせするために何度も学校に呼び出され、そして模擬授業も行う。パンコウさんはそこに入りたいと願っている。

「まあ、それは無理だろうけど」と彼女は言う。「でもここで仕事をしたい。でも、これにすべてを賭けるわけにもいかないのよ」。

注1、米国では学区単位で公立学校が運営され、その主な財源は固定資産税。そのため富裕層が比較的多く住む都市郊外の学校運営予算は、他地区より恵まれる。

注2、米国の新学期は八月九月に始まりませす。

注3、ここに、米国や日本における教育システムの問題がよく表れていると思います。

詳しくは『貧困大国アメリカ Part II』(堤美果著、岩波新書)など参照のこと。

◇ 読者からのおたより ◇

質問 梅雨に入り紫陽花のあざやかな時期となりました。さて、旬刊社会通信No.一〇七四号の記事について、その出典についてお伺いしたい事があります。「国際通貨危機とギリシャ」の一三頁、このストライキを妨害するのが極左のアナルコ・サンディカリズムの部分です、「黒覆面団」の事を指しているかどうかです、もともとサンディカリズムはゼネスト支持と理解してましたので何をもって反ストライキの行動と言うのか教えて下さい。共産党も現場派で議会少数を闘っています、共産党とサンディカリズムの対立なのですね?

(東京・H)

編集部より アナルコ・サンディカリズムとマルクス・エンゲルスの考え方は根本的に違いますよね。第一インターの時、マルクス・エンゲルスはバブーフ、バクーニンと徹底的に論戦しています。マルクスとエンゲルスの考え方は労働者は権力をにぎり国家権力を掌握しなければならぬ。それにたいし無政府主義者、アナルコサンディニスキのバクーニンは一揆で権力をにぎれば国家は消滅する。これと同じ論争が、イタリアやギリシャで今再燃し始めたことだと思います。

連帯するタベ これまで六三人の物故者を出したほど酷く長い闘いは、ようやく政治解決という日を迎えることができました。「やっただぞ! 闘争団・家族、そしてみんなの力で!」と「連帯する

夕べ」を開催する中で、「雇用確保」という課題を解決するとの決意で今日までの闘いの成果・到達点を確認しあいたい。

編集部より 全国各地で解決への前進に合わせ、報告会が次つぎに開かれています。

(国労・闘争団と連帯する夕べ)

僻地 北海道上川町の層雲峡地区は市街地から約二二キロも離れ、役場に来ることも一日仕事。北海道第二の都市で旭山動物園で全国的に有名になった旭川市も、中心市街地は空洞化がいちじるしいのが現状。こんな地域をどう元気にできるかと頭を悩まし続けています。(上川町議・安部逸雄)

編集部より 送ってくださった「通信」には層雲峡地区の人口は最盛期の約半分の二五七人。

交通事故 秋葉原第二の事件が広島・自動車会社社マツダ構内で発生。交通事故といえ死者減少だけが報じられますが、日本の交通事故の全貌をご存じか。一九九〇年の件数六四・三万、死者一万六五一、負傷者七九万。一五年後の二〇〇五年は件数九三・三万、死者六六二五、負傷者一一五・六万人。これってもすごい数字でしょう。交通戦争、さらに激化してるんです。(大阪・〇)

編集部より 自殺者三万もすごいけど、約一二〇万人が負傷する、これってやっぱ戦争。自動車よりレール必要。さらに気候変動最大の原因は車による放射熱。

楽しみ 「通信」が練馬から転送されています。住所変更願います。まだ家の整理がつきません、スペースをつくるためのホームセンター通いが続いています。「通信」楽しみです。(高知・I)

編集部より 変更したつもりだったのに。ゴメン。

朝鮮学校を視察 朝鮮学校は、一九五三年に土浦市に開校し、五九年に現在の水戸市に移転しました。北関東と東北地方で唯一の、高校を併設する全寮制の学校であることから、七〇年代には中高合わせて約九〇〇人の生徒が在校。北朝鮮の拉致問題が社会問題となった二〇〇二年以降は、生徒数の減少が著しいという。崔校長先生は、「〇二年以降、朝鮮学校を取り巻く環境は大変厳しく、学校は暴言や無言電話などの嫌がらせを受けている。生徒の安全を優先するために、通学時にチャモゴリを着用せずブレザーに着替えてもらっており、こういう状況がいつまで続くのか心を痛めている」「文科省は、朝鮮学校がどういいう教育をしているのか知るすべが無いとしているが、同省の職員が学校に来たのは開校以来五七年間で今年の三月のたった一度きり。無償化から除外したのは納得がいかない」と強調しました。

(茨城県土浦市議・井坂まさのり)

滝野様 「まちづくり8・6ニュース」女房の助けも得ながら、いつの間にか僕の手元に引き寄せてしまいました。僕の気持ちのなかでは、少しずつでも、一歩一歩、真の権利、真の平和、真の環境意識を培うものとして、購読者が一人になっても、発行し続けようという気持ちになっています。ぼろりぼろり購読中止があると、編集にずいぶん悩みます。「鹿児島島の石橋撤去に抗する」から始まったこともあり、行政批判、行政を揶揄する論調でしたが、僕は社会の底に流れているものを少しずつ引き出していきます。

(鹿児島・K)

編集部より 編集稼業のむずかしい時代。ともにがんばりましょうや。

もつと誇りを メディアの公務員バッシング、労働組合バッシングのたれ流しに、危機を感じます。労働者はもつと誇りをもって発言すべきと思うのですがね。

(東京・A)

編集部より 労働者が縮んでしまいました。労働者の階級的本能が去勢されてしまったかのようにです。世界中にかれん誅求の大嵐。本能をとりもどす時節の到来です。

課題 国鉄闘争後、共闘組織を維持しよう発展させるか、課題です。

(千葉・N)

編集部より 「たたかう会」でもNさんと同じ問題意識で論議開始。「通信」ではとりあえず国労運動の歴史を考えることから始めています。ご意見を。

抗ガン剤飲みながら 参議院選、社民党必勝のため抗ガン剤一日三回飲みながら自分でできるかぎり奮闘しています。私事ですが今年の八月末で退職となりますが、今の出向会社(グループ会社)に残って働き続けます。今後ともよろしく。社会通信のさらなる発展に期待!

(福岡・I)

編集部より とにかくお身体大切に。そんな中での購読、ご活動に敬意です。

転居 継続購読です。三月二九日、盛岡市から下記へ転居しました。

(岩手・O)

編集部より 連絡に感謝。さらにご活躍を。

感謝 いつもご配慮いただきありがとうございます。

(東京三多摩・N)

編集部より こちらこそいつものご配慮に感謝です。

国労運動強化こそ JR不採用問題が政治解決・和解成立。この二十三年余の国労家族の筆舌につくせない悔しさと怒りは計りきれない!「希望する人すべての採用」なしに、この問題は解決といえず、国労・闘争団はさらなる運動の強化が必要。

(神奈川・T)

編集部より みんな想いは同じ。力をつくし合おうよ。